

故儀野いさむ名譽主幹偲ぶ今

追悼記念句会

日時
令和4年12月10日

参加者一芳名
50音順

青砥たかこ
井倉植野 繁子 和子
太田佳生
岡本千代子 余光
小代千代子
神田良子 吉川哲矢 楠本晃朗
桑原すゞ代 小寺八重子 阪本高士
岸井ふさゑ 乙部美鈴 木村利春 倉周三
佐藤辰雄 柴田桂子 五味尚子 桑原ひさ子
島田千代子 高士 佐道秀子
滝川白井 染山下岡 柴田昌美 園江正
田中佐笙 新家新司 朝子 完司
吹宗 重人 美弥尚子 美弥尚子

安藤紀樂 岩田江畑 小笠原明子 沖本哲男 望月喜一
川端六點 北川ヤギ工 草間呱呱 黒川小島 蘭幸
阪本きりり 坂倉良二 孤遊島岡美智子 正信寺尚邦 重徳光州
谷口高橋 鈴木等 田中宇牧 柳伸螢柳 津守東風

出 口 セ ツ 子
長 井 喜 隆
中原 京 子
西 澤 知 子
野 口 真 桜 子
濱 野 と み 子
久 崎 田 菩
鮎 子 田 嘉 子
本 田 智 彦
松 井 あ も ん
松 本 桢 子
宮 原 せ つ
森 茂 俊
矢 沢 和 女
山 本 さ く ら
吉 岡 ま さ も
う め だ 番 傘 川 柳 会
生 駒 番 傘 川 柳 会
川 柳 東 大 阪 樣
生 駒 番 傘 川 柳 会 樣
吉 昊 ひ ろ し
御 供 え・御 花 代 を 頂 い た

御供え・御花代を頂いた方々 順不同

5 1 1 3
0 0 0 0
0 0 0 0
0 0 0 0
四 四 四 四

安岩森新宮藤前小田大田本片松池穂庄西
藤田中家原本中島中西中田岡本田山司
紀明惠完せ鈴知蘭螢將新智加柾武常登美
美和子
樂子子司つ菜栄幸柳文一彦代子彦男子
様様様様様様様様様様様様様様様様

番傘わかくさ川柳会 様
奈良番傘川柳会 様
番傘川柳北斗会 様
番傘みどり川柳会 様
京都番傘川柳会 様
やまと番傘川柳社 様
川柳二七会 様
大分県番傘川柳連合会 様
番傘折鶴川柳会 様



竹掃小高黒久江
村部代橋川崎畠
穂博千紀孤田哲
夫隆子代遊甫男
様様様様様様様

1	1		1	1	1	1
0	0	5	5	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
四	四	四	四	四	四	四

事前投句

「芝居」



田中 新一 選

(番傘川柳本社主幹)

寂しさを打ち消すように高笑い
選者吟

手を曳いて百寿を目指す夢芝居	久崎 田甫	細身でも秋刀魚主役と見得を切り	長谷川崇明
村芝居ほっこり役者あたたかい	谷川 香與	詐欺集団芝居仕立てで攻めてくる	山藤 聖子
喝采は女ばかりの村芝居	木村 利春	芸風に人間臭さにじみでる	阪本 秀子
七癖がすぐ出てしまう村芝居	吉川 哲矢	ブランドまとい幸せ芝居クラス会	中原 京子
美しい狐に惚れた村芝居	阪本 高士	おみおつけ一人芝居の幕が開く	佐藤 辰雄
近松の恋三味線に煽られる	美馬りょうこ	生かされてひとり芝居がまだ続く	白井 笠子
路地裏で紙芝居見た昭和の日	下岡 昌美	一人芝居自分にあげる努力賞	小川賀世子
アドリブもとび出し舞台今佳境	松本 桀子	芝居などしない直球ド真ん中	植野 繁子
泣き笑い寛美の芸に癒される	嶋 喜八郎	たまさかに演技も入れて夫婦する	桑原ひさ子
一日のきらりと光る立役者	坂本よし子	脇役の上司は部下を輝かす	藤田 武人
受け継いだ満席願う芝居文字	沖本 万喜	ワイシャツの白は芝居が巧すぎる	矢沢 和女
国会はへたな芝居を見せる小屋	青砥たかこ	転校の数が自慢の旅役者	年梅 道子
宝塚ホの十六がお気に入り	南 高志	うぶな娘もつくり笑いが上手くなり	吉岡まさお
語り継がねばはだしのゲンの紙芝居	澤井 敏治	善人を装う芝居肩が凝る	新家 実司
悪ガキも大人しくなる紙芝居	岸井ふさゑ	かあちゃんと演じる芝居今佳境	田中 薫
母聞むとホームドラマになる我が家	北川ヤギエ	今日も又妻の芝居に騙される	物種 唯修

和解するための芝居は憚らぬ 岩田 明子
生きようと必死の芝居嗤われる 森 廣子
夢の中おひねり抱え笑う僕 野口 龍
喝采に遠き人生演じ切る 毛利 元子
太芝居打つてお見舞いから帰る 大堀 正明
生き抜いた芝居の幕は家族葬 本田 智彦
馬鹿装つて彼の本性見定める 原田 正士
誘われて予習して行く大歌舞伎 田吹 宗鉄
嘆泣きのはずが本気になつてくる 弓山 アヤ
痴れ者を演じ賢く立ち回り 江畑 哲男
威張らせて煽て手綱握る妻 栗原つや子
酔つたふり猫なで声で芝居する 永田梅太郎
降りかかるピンチのがれた一芝居 田中美弥子
これからをどう生きようか夢芝居 染山 朝子
三幕目生きて氣合いの芝居打つ 辻 肇
いい人をやめる芝居が難しい 安藤 紀楽



ひとりの夜写楽のような見栄を切る 小笠原 望
尻尾だけ振つたが台詞間違える 重徳 光州
母だけは僕の芝居を見抜いてた 鮎子田嘉子
ばあちゃんのお伴で遠い日の芝居 植野美津江
愚を積んで積んで人間らしくなる 笹倉 良一
寂しさで一人芝居が上手くなる 八木 幸彦
病妻へ笑顔の芝居続けねば 油谷 克己
告知せず悲しい芝居最期まで 中城 裕子
母の涙にだまされておく冬の蠅 吉井テイ子
笑う母僕を安心させるため 柴田 桂子

宿題

写す



江烟
哲男
選

(関東・東北総局長)

選者吟

朝な夕な老母リモートで確かめる
食べる前儀式のように写す皿
毎食をスマホに残す闘病記
その内にZOOMの句会増えてくる
般若心経墨の香りに癒される
黒板をスマホで写し忘れてる
一人だけ外方を向いている写真
男前に写してくれてありがとう
アルバムを繰れば飛び出すハイチーズ
生き様を写す句集にひとつなり
無人販売良心写す小銭缶
お手本を写すだけでも上がる腕
スキヤーも心の傷は治せない
年輪の厚さをコピベしておこう
衛星が写した地球セピア色
サウナで体写絆で心整える
浮世絵を模写した偉大なるゴッホ
解答を写すスマホの無言劇
ITで進化を遂げるカンニング
胃カメラが写すわたしの常日頃
飢餓戦争写すカメラも泣いている
あの人は写真うつりがよかっただんや
せっかちを直してくれている写絆

島田千代子
川端六點
仲村周子
青砥たかこ
津守柳伸
白井笙子
播本英二
下林正夫
矢野桂子
柴田桂子
木村利春
北川ヤギエ
栗原つや子
八木幸彦
笛倉良一
菱木誠
中井佳子
立堀尚子
小島蘭幸
吉井テイ子
佐道正
長谷川崇明
稚山常男
下岡昌美
新家完司

吉永小百合コピペしたよな妻の顔
お見合い写真モノーになっている
災害のフェイク動画の狙い何
撮り鉄が写すローカル路の余情
身だしなみ合わせ鏡の後頭部
瞬間のゴールテレビで何度も
ドーハの歓喜号外の大写し
元気を写す朝のうれしい水鏡
夫の背の曲がり癖まで父譲り
逆さ富士私の顔も写ってる
そう言えば二人で撮ったことがない
保存する別れ上手な君の肩
スクープを撮ったスマホが姦しい
L判をはみ出で遺影にはむかぬ
コピペしたわたしの影が踊ってる
幸せの空気が写る良い写真
司馬遼の描く乱世が美しい
人間を模して仏像造られる
ウインドに写す虚像もわたしです
小窓から写せば小窓ほどの笑み
人が減る国行く末写して
右端が僕の写真の指定席
アルバムの中に見知らぬ僕が居る
写真写りが悪いとあの顔で言うか
原田 正士
西澤 知子
植野 繁子
澤井 敏治
鳩 喜八郎
三好 聖水
西 美和子
宮原 せつ
中岡千代美
年梅 道子
野口 龍
藤本 鈴菜
五味 尚子
くんじろう
阪本きりり
田中 薫
柴田 園江
山田 順啓
木嶋 盛隆
桑原すゞ代
田吹 宗鉄
木嶋 盛隆
楠本 晃朗
藤田 武人
倉 周三

宿題

「愛妻」



重徳 光州 選

(東海総局長)

選者吟
酔眼で見れば天女のよくな妻

こんな人が僕へ嫁いてくれました
愛妻家自負した頃もセピア色
たいせつな君がそばにいる幸せ
満面に愛を含んで愚妻です
恋女房ときに金棒ふりまわす
愛妻と呼ばれることもなく昏れる
愛妻を亡くして罪のなかにいる
ピンクの下着愛の表現深くなる
愚妻でない愛妻ですと眞面目顔
愛妻は御機嫌斜め呑めない日
悪妻と口でけなして仲がよい
ありがたや愛する妻の指示で生き
実いうと尻に敷かれた愛妻家
愛妻とテレずに言える脳回路
鑑賞用の妻でひねもす見て飽きず
棺から初告白をするつもり
愛妻の言うことハイと返事する
愛妻より愚妻の方が様になる
愚痴言はず俺の母へのおむつ替え
極上の枕は妻の膝枕
愛妻と言われて心くすぐられ
生きんな妻は白髪に花を挿す
綿棒を手に思い出す妻の膝
諭吉よりお前が好きと言う夫

中岡千代美 神田良子 原田正士 小代千代子 矢沢和女 木本朱夏 吉川哲矢 小山恵美子 大堀正明 前中一晃 植野美津江 久嶋田甫 澤井敏治 沼田捷二 正信寺尚邦 楠本晃朗 本田智彦 松本征子 中城裕子 桑原ひさ子 中原京子 田吹宗鉄 黒川孤遊 仲村周子 矢野薰

愛妻が居るのに余所見してしまう
寝る時に三ツ指ついてくれる妻
三好聖水 谷川香與 濱野とみ子 田中薰 北川ヤギエ
愛妻と呼ばれぬままの今ひとり
新婚のそぼろ弁当ハート型
シナリオに無かった妻が先に逝く
愛妻と歩幅合わせて生きている
柩にすがる寡黙な父は愛妻家
ひとめ惚れで好み倒してもた妻
阪本きりり 橋本恭治 宮原せつ
ケチャップでスキといまだに書いてある
仕方なく尻に敷かれる愛妻家
愛妻を自慢している恐妻家
年梅道子 田藤武人 岸井ふさゑ
うたた寝の妻の涎を拭いてやり
オイと呼び慣れていますが愛妻家
愛妻がフロと言ったら風呂沸かす
息絶えた妻へ感謝の添い寝する
愛妻で妻の影から出られない
妻に手を引かれて歩く嬉しさよ
美馬りゅうこ 新家完司 福西禮子 稲山常男
素晴らしい妻でいつでも側にいる
落ち込んだ日も愛妻が傍にいた
愛妻に後悔ないか問う日記
介護する老妻の背に手を合わせ
まだ妻に渡せずにいる感謝状

田中美弥子 三好聖水 谷川香與 濱野とみ子 田中薰 北川ヤギエ
沖本康信 藤井柳伸 岩田明子 野口真桜子 万喜 加代

宿題

歌う



久崎 田甫 選
(北陸総局長)

選者吟
おひらきに奥飛驒慕情歌うボス

老いらぐの恋ハミングが止まらない	五味 尚子	涙くんさよなら歌う老いふたり	染山 朝子
一番でやめるとうまいほめられる	三好 聖水	愛の讃歌もうこの人に決めました	田中 螢柳
ワンテンボすれて三番まで歌う	大堀 正明	口でなく心で歌い酔わせます	中原 京子
仕舞い風呂何時も高校三年生	高橋 英二	歌うなら世界にひとつだけの花	桑原ひさ子
歌好きはうたえぼころ軽くなる	松本 桥子	この歌を歌えば記憶開く扉	島岡美智子
晴天の小鳥の歌が気をくれる	宇牧 哲男	追憶のときに哀しいラブソング	江畠 哲男
天城隧道やっぱりさゆり歌つてゐる	小川賀世子	詩歌吟じ古き時代を問うて見る	坂本よし子
あの歌が着信音になつてゐる	松本 桥子	九条で子には軍歌を歌わせぬ	穂山 常男
歌上手気配り上手な美人秘書	出口セツ子	ひもじさをリングの歌で耐えていた	川端 六点
老残に懐メロだけが身に沁みる	松岡銀杏城	懐かしいロシア民謡あるのだが	田吹 宗鉄
九ちゃんを歌うと涙ぐんでくる	安藤 紀栄	戦争も平和も知つてゐる国歌	阪本 高士
愛されて人はやさしい歌になる	柄尾 和子	故里を歌うと浮かぶ母の顔	矢野 禮子
宇宙まで響くアリアにまだ会えず	矢沢 順子	輝いて手話のコーラス夢ひらく	福西 野薫
回復の兆しか母が口遊ぶ	岸井ふさゑ	辛い時つぶやくようにヨイトマケ	錢谷まさひろ
微力でも平和を願い歌つてゐる	鈴木 順子	病む母が涙でうたう里の歌	光州
朗々と国の独立祝う歌	吉岡まさお	懐メロに昔のわたし呼び覚ます	井倉 和子
あの歌がリフレインする雨の夜	荻野 浩子	春になれば六甲おろし歌いたい	物種 唯修
不死鳥を歌うたましい唄する	北川 ヤギエ	クリスマスの歌と思っていた第九	正信寺尚邦
施設の輪になじみ童謡歌う母	澤井 敏治	爺ちゃんの鼻歌曰ごと絆に似て	中城 裕子
裏表ない健さんの歌に酔う	吉川 哲矢	輪唱の負けじと声を張り上げる	濱野とみ子
洗いざらしの作務衣で歌う反戦歌	青砥たかこ	ふる里の顔に戻つて安来節	沼田 捷二
聴診器鼓動は歌う脈確か	湯澤 孝扇	クレムリンで歌つてみたい反戦歌	油谷 克己
童謡は忘れていない二度童子	田中美弥子	人として歌い継がねば反戦歌	岩田 明子
拍手送るう平和を歌うミュージシャン	山本さくら	硝煙よ母よイマジン口づさむ	柴田 桂子
お湯の中スーザーラ節の父となる		通天閣仰ぎ王将くちづさむ	新家 完司

宿題

くすり



黑川孤遊選

(九州總局長)

選者吟

彼女から電話があると風邪なおる長生きのくすり要る人いらぬ人治癒力を信じ薬は飲まぬ主義ゾコーベは効くのコロナは無くなるの山ほどのかくすりが重い旅カバンへマしては付けるくすりを探してる心配無用くすりのくすり飲んでますピンピンコロリと逝くため飲んでるくすりには頬らぬ朝のスマージー頓服のようなメールがあなたから失敗をくすりにできる生き上手裸婦像へくすりと笑う老い一人ふる里は和田カルシウム道修町目薬さしてお墓参りに行きました一番の薬は日日のお献立ピリオドを打てぬ命へ薬漬け初雪に琥珀の酒という薬薬局で足りるからだに感謝するW杯負けて次期へのくすりだなワクチンを五回も打って逃げ回るおんなの艶よく効く恋の处方箋薬より妻と笑顔のロゼワイン薬飲む水で乾杯クラス会昭和の母子のかすり傷唾つけた飲んだかな未だかなくすりがなやませる

藤本	太田	佳生
川端	沖本	万喜
辻	野口	肇
染山	年梅	龍
木嶋	道子	
西澤	朝子	
南	美馬りゅうこ	
仲村	幸彦	
神田	高志	
吉川	盛隆	
周子	知子	
良子		
哲矢		
田中美弥子		
本田		
智彦		
田中		
薰		
小山		
惠美子		
山藤		
聖子		
長谷川崇明		
木村		
利春		
松本		
あや子		

ばあちゃんの眠りぐすりも陀羅尼助
快調だくすり全部を捨ててから効くと思ひ飲んでおります知らんけど
ご長寿のくすり身長まだ伸びる
ブランコは疲れた夜の常備薬
お地蔵さんくすりとさせる麦畑
生かされるこの一粒と川柳と
万病に効くのはやはり褒め言葉
画像みて薬へらすと担当医
老いてなお薬と無縁健啖家
わたくしの味方は一粒のニトロ
忠告が過ぎて結果を悪くする
報われるダイヤの指輪くすり指
バーポンと龍角散と父ちゃんと
失恋に日にち薬が効いてくる
くすり漬け銀河列車の出発だ
いくさ好きボスに特効薬が無い
九条は平和を守る常備薬
命ゆらゆら錠剤を転がして
弱くなつた男をためしたいくすり
薬包紙あと一服で千羽鶴

阪本きりり
立堀 尚子
小島 蘭幸
吉井テイ子
滝川 重人
くんじろう
北川ヤギエ
栗原つや子
沼田 捷二
吉岡まさお
新家 完司
阪本 秀子
油谷 克己
荻野 浩子
坂本よし子
草間 呟々
桑原すゞ代
菱木 誠
阪本 高士
岩田 明子
柴田 園江
矢沢 和女
森中恵美子
正信寺尚邦

宿題「絵画」



小笠原 望 選

(四国総局長)

花を描く癌の治療の中休み
選者吟

孫が画くばあちゃん細い目太い皺	橋本 恭治
財テクの絵画壇んで見えてくる	大堀 正明
ダヴィンチには負けるがピカノ並の孫	播本 英二
絵に描けば売れる棚田の秋の景	川端 六点
踏み絵にはぼくの似顔絵描いてある	澤井 敏治
魂が叫びつづける無言館	笹倉 良一
A I の絵筆いざなう星月夜	阪本きりり
絵画より武器が欲しいとウクライナ	出口セツ子
一幅の絵になる角度探す窓	松本 桀子
モディアーニの女に似てる細い首	乙部 美鈴
絵画展ひまわりだけを見て帰り	矢野 野薫
にこことぬり絵の母の愛おしい	柴田 園江
思い出の絵画に父も母もいる	八木 幸彦
小児病棟スケッチブックは白いま	佐藤 辰雄
北斎の波ざんぶりと富士を呑む	園江
虹の絵に利休鼠を足す老後	錢谷まさひろ
ゲルニカの叫びロシアに届かない	田中 薫
深水の女の赤い雪が降る	矢沢 和女
お日さまも花もにこにこクレヨン画	片岡 加代
わたくしの一揆絵の具の乱氣流	島岡 美智子
神の絵筆が四十万川を描く	碓氷 祥昭
上海はムンクの叫び白い紙	下岡 昌美
絵手紙の筆とりひと日画伯です	染山 朱夏
希望という絵の具で明日を塗り直す	木本 孤遊
赤と黒二色で足りる地球の絵	黒川 朝子
泣いている恐竜もいる子どもの絵	安藤 紀楽
お絵描きの延長線にパンクシー	岸井ふさゑ
向きあえはしぶきがかかる魁夷の絵	中城 裕子
S D G s 落ち穂拾いにある美学	五味 尚子
後ずさりしながらジッと見る絵画	久崎 田甫
ゴッホの黄私は赤で生きて来た	小島 蘭幸
ひまわりの絵から廃墟のウクライナ	荻野 浩子
ダリの絵に居眠っている負の記憶	吉川 哲矢
生かされてほっとしている水墨画	植野美津江
西窓のキャンバスタ映えの見事	田中美弥子
五十年絵になるふたり日向ぼこ	小代千代子
若冲の鶴が丑三ツ時に啼く	正信寺尚邦
富弘の詩画に励まされたベッド	毛利 元子
パーチャルで名画の中に旅をする	沖本 万喜
シャガールは人も天使もみな逆さ	田中 螢柳
絵画展マスクの人がたちつくす	森中恵美子
ひまわりはトマト浴びても怯まない	松井あもん
自画像に百万本のバラ添えて	北川ヤギエ
反戦を崩れた壁に描いている	阪本 高士
水玉が小さくて重い名画展	吉井 テイ子
近づけば遠離ると銀河の絵	くんじろう
消えた名を惜しむ秋から冬の絵に	桑原すゞ代
白絵の真混せてほかして恋かしら	林 ともこ
80億違う顔描く神の筆	原田 正士
腰痛とは無縁タヒチの女です	西澤 知子

宿題

旅



森中恵美子 選

(番傘川柳本社名譽顧問)

生まれてひとりいつまでつづくひとり旅
選者吟

いさむ翁旅立つまでも五七五
満面の笑顔思い出パリの旅
自己責任とする川柳の旅続く
雪は津軽のんのん旅人の眉に
薩摩へと手足伸ばした湯治旅
六地蔵ひょっこり会えた飛驒の里
猫寺で福井の旅もおもろいで
旅が好き殊に由布院句碑の里
グルメ旅うどん今井で締めくる
初冠雪の富士山は至近距離
越冬つばめ宿の枕が濡れた朝
オギャアからサイナラまでの独り旅
行くあてもないのに今日も旅をする
仏壇に留守を頼んで旅鞆
満月もいすれは欠けるひとり旅
片道の旅人生はそれぞれに
母の愛広げて食べた竹の皮
途中下車逢いたい人がそこにいる
旅のよさすべてを忘れフレッシュ
旅立つ孫のうすい背中を押してやる
楽しかった旅もやっぱり家がいい
椿よし山茶花もよしひとり旅
旅立ちは真紅のバラが散ってから
しがらみを断つて自由な旅に居る
思影を辿つて北の旅ひとり

矢野 野薰 南 高志 小笠原 望 植野 繁子
永田 梅太郎 津守 柳伸 下岡 昌美 武人 藤田 正
田中 螢柳 正信寺 尚邦 草間 呶呶 和女 菱木 誠
川端 六点 松井 あもん 阪本 高士 柴田 園江
桑原 すゞ代 倉 周三 正信寺 尚邦 西澤 知子
神田 良子 本田 智彦 岩本 きりり 岩本 茂俊
柴田 桂子 片岡 加代 宮原 せつ 北川 ヤギエ
高橋 明美 吉川 哲矢 林 ともこ 楠本 晃朗 原田 正士
阪本 さつき 田中 薫 田中 美弥子 沼田 捷二
西澤 知子 田中 美弥子 小代 千代子 田中 新一
荻野 浩子 木本 朱夏 沼田 捷二 田中 新一
楓樂 朱夏 木本 朱夏

旅先の無事を祈つてスクワット
良い旅が出来たと父母に感謝する
旅行けば非日常が枷はずす
お静かにヒナは巣立ちをするところ
夜行バス母の容態気にかかる
アルバムでタイムトラベルして過ごす
定年後赤いバイクにまたがつて
恩人に献杯長い旅終わる
船旅は終わる花嫁抱きあげる
ウクライナへ旅立つ冬の渡り鳥
W杯の旅ラボローに沸きました
浦島太郎で火星から帰る
宇宙へも旅が出来そう近未来
花の旅約したままの春がゆく
ガイドは阿弥陀彼岸へのひとり旅
蟹ツアーヒョウカニはいりません
返納し鈍行旅の良さを知る
旅支度酒と薬はいつもある
たまゆらの命ことほぎいちど旅
いい旅でしたあの人もこの人も
旅土産一男二女の顔浮かぶ
どこまでも夫婦一緒の旅続く
終着駅近い夫婦の長い旅
仏さんにも土産を買って旅おわる
山頭火とふとすれ違う冬の旅